薬害オンブズパースン・タイアップ東京総会企画

別府宏圀医師特別講演会
「医療のリアリズム：消費者は医療に何を求めるか」

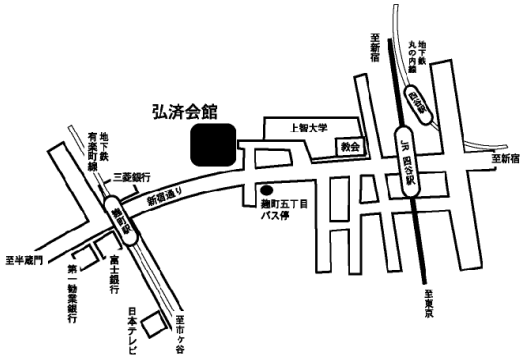
日　時：4月22日（土）　13時15分～13時45分　タイアップ東京総会（会員限定）
14時～16時　特別講演会（どなたでも参加可）

お話：別府宏圀氏（医薬品・治療研究会代表、薬害オンブズパースン会議副代表）

スモン訴訟において、原告側証人オーレ・ハンソン医師（キノホルム説を明快に証言し勝訴の原動力となった）の招聘を実現させたことをきっかけに薬害問題にかかわるようになり、1985年に「医薬品・治療研究会」を創設して、独立医薬情報誌「正しい治療と薬の情報」（TIP）を創刊。前都立北療育医療センター院長、現・新横浜ソーワクリニック院長。

場　所：弘済会館4階「萩の間」（四谷）

東京都千代田区麹町5-1，電話(03)5276-0333
ＪＲ四ツ谷駅　または　地下鉄有楽町線麹町駅下車　徒歩5分



参加費：無料

演者から皆さんへ

「『時に癒し、しばしば支え、つねに慰む』は、エドワード・トルドー（1848-1873；米国の医師）が愛した言葉として、よく引用されます。本当に医学が癒せる病気はわずかであり、病苦を軽減することすらままならない。医療者ができることは（そしてしなければならないことは）常に患者・家族の傍らにあって慰めることであるという意味ですが、医学が進歩したと思われている現在においても、状況はあまり変わっていません。そんな中で、いまも『夢の新薬』や『画期的な治療法』が次々と登場してきますが、儲けにつながらない医療はますます片隅に追いやられ、健康不安を巧みに利用した商業主義だけがこの国の保健医療サービスを支配しているような気がします。何が現実であり、何が必要なのか、消費者の目から医療をもう一度見直すことが、この講演のねらいです。」

--*-